

子ども達が「分かる!」「できる!」と実感できる授業への改善  
～学力調査結果と4つのチェックポイントの活用を通して～

本校の研究に係る課題

① 本校の実態（学力調査結果）より

- ※ 無答・誤答の実態については、前回の主題研で配布済。
- ※ 『平均正答率の合計から見た児童生徒の分布』については別紙。

② 学年の実態より

学年	国 語	算 数	その他
1 年			
2 年			
3 年			
4 年			
5 年			
6 年			

焦点化した学年の課題

- ※ 焦点化して短期間で結果を出すことができるもの。

③ 教師の授業（4つのチェックポイント）より

- 1 子ども一人ひとりの理解度を1単位時間の授業の中で評価し、定着や習熟を図る時間が確保されているか。
- 2 指導内容が精選されており、テンポや間に配慮して授業を進めているか。
- 3 授業内容は子どもの実態にマッチしているか。（平均をやや下回る子どもも理解できる内容か。）
- 4 教師の指示や発問は的確で、子どもに伝わっているか。（音量、話し方も）

焦点化した学年の課題

※ 焦点化して短期間で結果を出すことができるもの。(1つか2つ)

## PLAN

### 課題解決に向けての取組

※ 焦点化して短期間で結果を出すことができるもの。

(        ) 学年

① 教科(領域)

② 内容

③ 到達目標

【学力向上】

※ 研究授業が全て終了した後に、検証テストを実施。

※ 次年度実施する、全国学力・みやざき学力テストの利用や、自作テストを作成。

達成率

%

【授業力向上】

※ 研究授業の中で、4つのチェックポイントを元にした授業視点表を活用。

# DO

## 日々の授業実践

- ※ 毎日の授業実践で授業改善を！
- ※ プラスαとしてのスキルアップタイムの活用（全34回）

(1学期)	(2学期)
6月 6日	10月17日
6月13日	10月24日
6月20日	10月30日
6月27日	11月 7日
7月 4日	11月14日
7月11日	11月21日
7月18日	11月28日
8月29日	12月 5日
9月 5日	12月12日
9月12日	12月19日
9月19日	1月 9日
9月26日	1月16日
	1月23日
	1月30日
	2月 6日
	2月13日
	2月20日
	2月27日
	3月 6日
	3月13日
	3月20日

指導案形式

第〇学年〇組 □□科学習指導案

平成 年 月 日 ( ) 校時

授業者 △△ △△

- 1 単元 (題材)
- 2 本時の目標
- 3 学習指導過程

段落	学習内容及び学習活動	4つのチェックポイントを元にした改善点
しかせ ( ) ( )	1  2	
うんじゆ ( ) ( )	3  4	<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p><b>1回目の研究授業</b> 「授業視点表」のみ提出 ※ 校長先生に参観して頂きます。</p> <p><b>2回目の研究授業</b> 「指導案」と「授業視点表」を提出 ※ 各学年の先生を中心に参観して下さい。</p> </div>
まじゆ ( ) ( )	5	

# CHECK

## 授業視点表

授業者 ポイント〇	4つのチェックポイント	授業の視点	チェック ◎○△
	1 子ども一人ひとりの理解度を1単位時間の授業の中で評価し、定着や習熟を図る時間が確保されているか。	① 子どもを瞬時に評価し、それが次の指導に生かされている。	
		② 考える時間、活動する時間を確保している。	
		③ 量が確保されている。	
	2 指導内容が精選されており、テンポや間に配慮して授業を進めているか。	① 1時間の流れがスムーズで無駄がない。	
		② 時間配分が的確である。	
		③ 子どもに学習の困難を感じさせないように、スモールステップの指導の手立てが取られている。	
	3 授業内容は子どもの実態にマッチしているか。(平均をやや下回る子どもも理解できる内容か。)	① 言ってきかせ、やってみせて、やらせてみて、できたらほめている。	
		② 子どもの発言を生かした授業が展開されている。	
		③ 全体の流れがつかめる板書になっている。	
	4 教師の指示や発問は的確で、子どもに伝わっているか。(音量、話し方も)	① 発問、指示が簡潔で分かりやすい。	
		② 無駄な言葉がなく、しゃべりすぎしていない。	
		③ 声にメリハリがあり、子どもを引きつけている。	

メモ